

香川県高松市小学生親善交流事業に行ってきました

8月5日(水)から7日(金)の3日間にわたり「香川県高松市」(旧国分寺町)との友好親善交流として小学生派遣事業を実施しました。「国分寺町」という所以から交流が始まり、合併によりそれぞれ町名が変わっても今までどおりの友好親善を図るため、地域間交流という形で毎年、派遣事業を行っています。

今回の派遣団は下野市内小学6年生20名、引率者(小学校教諭)2名と団長、事務局の24名でありました。

初日は、地元小学生の太鼓演奏での出迎えと本場の「讃岐うどん」でもてなしを受け、本場の味を十分堪能しました。その後、地元小学生との交流会や讃岐国分寺資料館、史跡の見学を行い、交流を深めるとともに、間近に古代の歴史に触れることもできました。

2日目は、瀬戸内海での「地引網」の体験と海水浴でした。大半が初めての体験となったようで大いに楽しめた様子でした。その後、地引網で捕獲した魚やタコなどを地元の小学生や関係者の方々と一緒にいただきました。その後、栗林公園や屋島を見学し高松市の自然と風土を満喫しました。

3日目の最終日は、「善通寺」と「金刀比羅宮」の参拝を行いました。特に、「金刀比羅宮」は暑さもあり階段登りは大変でしたが、奥社までの1,368段を登りきった子たちもおり、全員が一生涯懸命にがんばりました。

3日間という短い時間ではあったと思いますが、高松市の小学生との交流とともに「讃岐国分寺」の歴史や自然に触れ合うことによりお互いの友好親善を深めることができたと思います。また、事業には市内の小学生が参加しており、別な交流もできたようでした。

今回の交流事業を通して、参加した子どもたちには、「友好親善の大切さ」や「人とのふれあい」と同時に地元への郷土愛も深めてもらい、今後も友好の輪を広げて行ってほしいと思います。



ドイツの大学生が来市しました

8月18日(火)から31日(月)までの14日間にわたり、ドイツのミュンヘン大学の学生8人が来市し、市内の家庭にホームステイしながら日本の日常生活を体験しました。

一行は滞在中、日本語の学習をはじめ書道、華道、益子焼、浴衣の着付けなど様々な日本文化を体験しました。また、栃木県の伝統工芸品であるふくべ細工作りを市民と一緒に楽しみました。学生たちは、初めて触れる日本の文化に興味津々の様子で、すべての体験に熱心に取り組みました。また、石橋高校の生徒との語学交流も行われ、互いの文化について話し合う貴重な体験となりました。

一行は、2週間の生活を共にしたホストファミリーとの別れを惜しみつつ、将来の再会を約束しながら、8月31日、下野市を後にしました。

